

近年出版された、サキヤ派関係の文献紹介

ツルタイム・ケサン

0. はじめに

一九九九年から二〇〇〇年にかけて、北インド・ウッタール・プラデシュ州デラドウン (Dehra Dun) から一三世紀から一六世紀にかけて活躍したサキヤ派の伝統に連なる高僧の全集が出版された。チベットの伝統的な「貝葉」形式をとっているが、文字はネパール・カトマンズにある International Buddhist Academy でコンピュータによって入出力されたものである。この中には、これまで我々が眼にすることができなかった貴重な文献が取められているので、今回、その中のいくつかを簡単に紹介したい。

1. パン翻訳者ロドーテンパ (dPang lo tsā ba Blo gros brtan pa, 1276-1342) 『アビダルマ集論註』

「彼がいらっしやった時代、彼より気概の高い学者はだれも

いなかった」と、ゴ・シヨンヌベル (Gos gZhon nu dpal, 1392-1481) がその著『テプテルゴンボ』の中で評価し^①、偉大な翻訳校訂者 (zhu chen gyi lo tsa ba chen po) として知られるパン翻訳者ロドーテンパは、私と同郷、スルツォ (Zur tso) のギヤム (Gyam) 出身である。彼の伝記は『シエルカル仏教史』および『テプテルゴンボ』に詳しい。今回その全集が出版された。

The Collected Works of dPang-lo Blo-gros brtan-pa, Sakya College, Dehra Dun, 1999.

『シエルカル仏教史』によると、彼は『カーラチャクラ』や『詩鏡』に対する註釈、『Tshogs gsum gsal ba』という正字法に関するものなど、数多くの著作をなしたというが、今回の全集に収録されているのはただ一つ、次に掲げる『アビダルマ集論』に対する註釈である。

Chos mngon pa kun las bus kyū rgya cher 'grel pa shes bya

彼は六一歳の時、ギェルセー・トクメーサンポ (Gyal stras Thogs med bzang po, 1295-1369) の招聘を受け、ポトン・エ (Bo dong E) の座主となった。一〇四九年に建立されたこの古刹は、パン翻訳者の甥の甥にあたり、チベットで最も多くの著作をなしたチヨクレーナムギェル (Phyogs las nam rgyal, 1375-1451) という偉大な学者が、後、その座主をつとめたところであり、『アビダルマ集論』研究の伝統を継承した寺院であった。それは『テプテルゴンポ』の『アビダルマ集論』相承の章」に

ブムタクスムパ (Bum phrag gsum pa) の本山ポトンに住まわれる三蔵法師 (sde-snod 'dzin-pa) は、ほとんどこの法 (＝『アビダルマ集論』) をよくなさった。ポトン・エのラマ相承についての文書を得られないが、この寺には教証と理証のアビダルマと律、声明、詩学などの広大な功德を持つている者が数多く現れた。この寺はすばらしい場所である。^③

とあるとおりである。

この『アビダルマ集論』註の重要性については、「チベットにおける『アビダルマ集論』の研究 — パン・ロツァーワの『註釈』を中心にして—」(『櫻部建博士喜寿記念論集』近刊) にすでに詳しく述べた。

2. レンダワ・シエンヌロエー (Red mda' ba gzhon nu blo

gros, 1349-1412) 『中論註』、『フラーナーヴァールツェイカ註』、『アビダルマ集論註』

彼はツォンカバの師である。レーチェン・クンガギェンツェン (Las chen Kun dga' rgyal mtshan) の『カダム明灯史』は、彼の弟子について

最高の学習者となった一切智者シエーラプオーセル

最高の弟子となったロサンタクパ

最高の実践者となったクンガーベルサンポ

最高の智者となったニマギェンツェンと

最高の説法者となったベンジヨルシエーラプと

最高の論争者となったタルマリンチェン

彼らが経義に広く通じた七人の善知識^④。

という、レンダワ自身の言葉を用いる。そこにはロサンタクパすなわちツォンカバとならんで、ツォンカバの弟子であるタルマリンチェン (Gyal tshab Dar ma rin chen, 1364-1432) の名前があげられている。同じくツォンカバの弟子であるケードゥブ (mKhas grub dge legs ydpal bzang, 1386-1438) も、彼から比丘戒を受けたばかりか、「中観」と「論理学」を学んでいる。しかし、ここにその名はあげられていない。おそらくケードゥブの方が少しばかり若く、かつ、教えを受けたのも、レンダワの晩年にあたっていたことによるのだろう。

今回彼の全集として、次の二巻が出版された。

The Collected Works of Red-mda'ba gZhon-nu blo-gros

Volume-A, Sakya College, Dehra Dun, 1999.

The Collected Works of Red-mda'ba gZhon-nu blo-gros

Volume-B, Sakya College, Dehra Dun, 1999.

彼は『中論』『入中論』『四百論』に対する注釈を著したとされる。うち『入中論』『四百論』に対するものはすでに出版されており、これを利用することができた。ところが『中論』に対するものは、目にするのができないままであった。それが、今回出版された全集の volume B に収録されている。すなわち

dBu ma rtsa ba'i 'grel pa thad pa'i snang ba

である。

さて次に、volume A に収録されてくる

Tshad ma nman 'grel gvi nman bshad rigs pa'i 'dod 'jo

をあげよう。

ゲルク派では現在、論理学については、タルマリンチェンおよびケードゥップの著作を重視している。先述のとおり実は、この二人も、ツォンカパ同様レンダワの教えを受けている。それゆえ、今回出版されたレンダワによるこの注釈は、現在主流となっているタルマリンチェンおよびケードゥップのもの源泉となすべきものであり、これを検討することによって、その解釈の流れを歴史的に跡付けることが可能になったのである。

次に volume B に収められている『アビダルマ集論』に対する註釈

Dam pa'i chos mngon pa kun las bus pa'i snying po legs

bshad nor bu'i phreng ba

をあげよう。レンダワは、『アビダルマ集論』の教えをチャンチュプツェモから受けている。すなわち『カダム明灯史』に

それから、一切法の祖母であるアビダルマの蔵を聴聞しようとお考えになって、大翻訳者チャンチュプツェモに師事

して、上下アビダルマ(＝上アビダルマ『アビダルマ集論』と下アビダルマ『俱舍論』)を何度も聴聞なさった。

とあるとおりである。また、パン翻訳者の著作に影響を受けていることも同じく『カダム明灯史』に

賢者自在者パン翻訳者の善説などをも御覧になって、アサング御兄弟の主張をそのまま御理解され、上下アビダルマの注釈を要約とともにお造りになった。

とあることからあきらかである。

これまで『アビダルマ集論』に対する注釈としては、タルマリンチェンのものしか見ることができなかった。しかし今回、先述のパン翻訳者によるものと、このレンダワによるものが出版された。これにより

パン翻訳者↓チャンチュプツェモ↓レンダワ↓タルマリンチェン

というタルマリンチェンに至るまでの、チベットにおける『アビダルマ集論』研究の伝統を、思想的に跡付けることが可能になったのである。

ロントン・シエーチャクンリク (Rong-ston Shes-bya kun-

rig, 1367-1449) 『修習次第註』

彼は、東チベット・ギャロン (rGyal rong) の出身、一六歳の時、中央チベットに行き、サンフネツトク (gSang phu ne'u thog) 寺に入り、ロドゥワンチユク (Kong ston Blo gros dhang phyug) のもとで四年間学ぶ。二二歳の時、Tshad-ma nam-ngas (量決択) に対する注釈を著わした。この時から講説を始めて、死ぬまで各地を巡り講説をやめなかったという。その後、ヤクトン・サンギエーベル (g.Yag-ston Sangs-rgyas-dpal, 1348-1414) のもとで学ぶ。一四三六年、ラサの北方約六五キロにあるベンポ (Phan-po) の地にナーランダ (Nalendra) 寺を建立。彼の名声は明の皇帝にまでとどき、皇帝から数多くの贈り物をもたらしたという。彼の伝記については、David P. Jackson 氏による子細な論考がある。^⑩彼は論を研究する際、どんな言葉の意味も自分の心で詳しく分析し、他人の受け売りはせず、著者がインド人であれチベット人であれ、その著作の内容に矛盾があれば、これを批判したという。ツォンカバの『現観莊嚴論』に対する注釈『金鬘 (Ser phreng)』を批判、後、これに対してタルマリンチェンが反論するという論争が行なわれたことは有名である。^⑪今回彼の全集として以下の二巻が出版された。

The Collected Works of Rong-ston Shyakya rgyal-mtshan

Volume-A, Sakya College, Dehra Dun, 1999.

The Collected Works of Rong-ston Shyakya rgyal-mtshan
Volume-B, Sakya College, Dehra Dun, 1999.

の中で注目すべき文献は、volume B に収録されている『修習次第』に対する註釈である。

gom rin dang po'i 'grel pa zhi lhaq gsal bar byed pai rgyan
gom rin bar pai 'grel pa gnad kvi zla zer
som rin tha mai 'grel pa lha'i mnga sgra

『修習次第』は、ツォンカバの『菩提道次第広論 (lam rim chen ho)』にも引用され、チベットにおいて重視されていた論書であったことに疑いはないが、それに対する註釈書の存在を、私は寡聞にして聞かない。今回出版されたロントンのものが、おそらく唯一のものであろう。彼が『修習次第』を重視したことは、トゥカンの『宗義書』の中の以下の記述から知ることができよう。

彌勒の化身であり、シチエ派の教えと『修習次第』を特に尊ばれたので、パダムバ (Dha dam pa) とカマラシーラの生まれ変わりであるともいわれた。^⑫

また、同じく volume B に収められている「散集 (sang thor bu)」の中には『中辺分別論の修習次第』『経莊嚴論の修習次第』というふうに、「修習次第」の名を付けた文献がいくつか見られる。このことから、彼がいかに『修習次第』を重視していたのが理解できよう。

ラマタムバ・ソナムギエンツェン (Bla ma dam pa bSod nams rgyal mtshan, 1312-1375) 『インプーナヴァールマッティカ註』

著名な歴史書『王統明示鏡』(rGyal rabgs gsal ba'i me long)^⑧の著者として知られる彼は、パン翻訳者およびプトン (Buston rin chen grub, 1290-1364) の弟子であり、ツォンカバもその教えを受けたといわれる人物である。今回彼の全集として『The Collected Works of Bla-ma dam-pa bSod-nams rgyal mtshan volume dha, Sakya College, Dehra Dun, 1999.』

一卷が出版された。彼には数多くの著作があったことは知られていたが、これまで見ることができたのは、先述の『王統明示鏡』のみであった。なお、Leonard W. J. van den Kuip 氏が北京の民族文化宮所蔵の全集について子細な報告をおこなっている。今回出版されたもののなかで注目すべきは

『Shad ma nram 'gral gyi 'gral pa legs par bshad pa'i snying po』
である。

マンター・ルドゥプギヤムツォ (Mang thos Klu sgrub rgya mtsho, 1523-?) 全集

マントールドゥプギヤムツォは、ラトター (La stod) 地方で生まれ、三〇歳の時にはチョーコルリン (Chos 'khor gling) の、三三歳から五一歳までヤガチョーティン (Ya ga

chos sting) のロホン (slob dpon) を、五二歳の時にはニホンヨーチャシモン (mNyan yod bya gshongs) の僧院長をとめた人物であり、とくにツマン地方で活躍した人物である。

彼は一五九四年、自伝 (Kang gi nman par thar pa yul sna tshogs kyi bdud rtsi myong ba'i gnam du byas pa zol zog rdzun gyis ma bsal pa sgeg mo'i me long) を著したとされ、西藏自治区社会科学院蔵文古籍出版社編の「仏教史年表 (bsTan rtsis gsal ba'i nyin byed liag bsam rab dkar 『仏歴年鑑及五明論略述』西藏人民出版社 一九九八年、p. 1-251)」の「著者略伝 (rtsom pa po'i lo rgyus mdor bsdas)」に付けをふよにしたとすべ。最晩年の活動およびその没年は不明である。

彼の全集として今回は、以下の四巻が出版された。

『The Collected Works of Mang-thos Klu-sgrub rgya-mtsho Volume-A, Sakya College, Dehra Dun, 1999.』

『The Collected Works of Mang-thos Klu-sgrub rgya-mtsho Volume-B, Sakya College, Dehra Dun, 1999.』

『The Collected Works of Mang-thos Klu-sgrub rgya-mtsho Volume-C, Sakya College, Dehra Dun, 1999.』

『The Collected Works of Mang-thos Klu-sgrub rgya-mtsho Volume-D, Sakya College, Dehra Dun, 1999.』

彼の著作としてはこれまで、先述の「仏教史年表」(一五六六年の時の著作) が出版されていたのみであるが、今回の出版によって彼の思想的な面も伺い知ることが可能となった。ただ、彼の生涯を知る上での重要な資料である自伝は、残念ながら収

められていた。

その他

その他、以下のものも出版された。その中でも注目すべきものは、フンチョータク (Ngag-dbang chos-grags, 1572-1641) の全集である。彼は『Pod chen drug gi 'bel glam』という書を著したことが知られる。^⑤

- The Collection Works of the Ancient Sa-skya-pa Scholars*
Volume 1, Sakya College, Dehra Dun, 1999.
- The Collection Works of the Ancient Sa-skya-pa Scholars*
Volume 2, Sakya College, Dehra Dun, 1999.
- The Collection Works of the Ancient Sa-skya-pa Scholars*
Volume 3, Sakya College, Dehra Dun, 1999.
- The Collection Works of the Ancient Sa-skya-pa Scholars*
Volume 4, Sakya College, Dehra Dun, 1999.
- The Collection Works of mKhyen-chen Ngag-dbang chos-grags*
Volume 1, Sakya College, Dehra Dun, 2000.
- The Collection Works of mKhyen-chen Ngag-dbang chos-grags*
Volume 2, Sakya College, Dehra Dun, 2000.
- The Collection Works of mKhyen-chen Ngag-dbang chos-grags*
Volume 3, Sakya College, Dehra Dun, 2000.
- The Collection Works of mKhyen-chen Ngag-dbang chos-grags*
Volume 4, Sakya College, Dehra Dun, 2000.
- The Root Verses of the Six Great Textuals Volume 1*, Sakya

- College, Dehra Dun, 2000.
- The Root Verses of the Six Great Textuals Volume 2*, Sakya College, Dehra Dun, 2000.

(本稿作成にあたっては、三宅伸一郎氏の協力を得た。)

- ① 'Gos lo gZhon nu dpal (1392-1481), *Deb ther sngon pa*, Si khron mi rigs dpe skrun khang, 1984, p. 921 l. 4-5.
- ② Ngag dbang skal ldan rgya mishe (18th c.), *Shel dkar chos byung* : *History of the "White Crystal" Religion and Politics of Southern Lhasa* (Translation and Facsimile Edition of the Tibetan Text by Pasang Wandu and Hildegard Dienberger), Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, Wien, 1996, p. 62-70, *Deb ther sngon pa*, p. 920-921.
- ③ *Deb ther sngon pa*, p. 420 l. 15-19.
- ④ Las chen Kun dgá rgyal mtshan, *dkal gdams kyi man par thar pa kha'i gdams chos 'byung gal ba'i sgron me*, Toh. no. 7038 f. 311b6-312a 2 : sbyangs pa'i mchog gyur kun mkhyen sher 'od dang / sras kyi mchog 'gyur blo bzang grags pa'i dpal / nyams len mchog 'gyur kun dgá dpal bzang po / shes rab mchog gyur nyi ma rgyal mtshan dang / brise ldan mchog 'gyur dpal 'byor shes rab dang / 'chad mkhas mchog 'gyur bsod nams shes rab dang / rtsood pa mchog 'gyur dar ma rin chen te / gzhung lugs rab 'byams shes pa'i bshes gnyen bdun /
- ⑤ *mKhas grub thams cad mkhyen pa'i man thar mkhas pa'i vid' phog*, Toh. no. 5456, 3b2-6.
- ⑥ 『白虹譜』 白虹十尊 梵藏 Byang chub sems dpa'i mal byor spyod pa

